

# 九州から修学旅行生 3年ぶり復活

## 本物の福島 感じるのは今



津波や火災で大きな被害が出た沿岸部を訪れ、説明を聞く修猷館高校の生徒たち＝8日、いわき市久之浜町

九州の高校の県内への修学旅行が東日本大震災から約3年ぶりに戻り始め、3月までに12校が訪れる。生徒が津波や原発事故の被害を受けた沿岸部を回ったり、被災者の体験を聞いたりする学校もある。「教科書には載っていない本物の福島に会いに行こう」と、安全性とともに訴える関係者の地道な誘致活動の成果が出てきたという。

県観光物産交流協会によると、県外の小学校から大学までの修学旅行や林間学校など宿泊を伴う「教育旅行」は、2009年度が4779校(のべ約55万6千人)、震災が発生した10年度は4381校(のべ約50万

### 今年度12高校 沿岸部歩き体験談に耳傾ける

や首都圏の学校、旅行会社へ誘致活動した効果もあり、12年度は1592校(のべ約15万人)と前年の倍まで戻った。しかし、九州の高校は09年度26校、10年度37校が修学旅行で県内を訪れていたが、原発事故や余震を心配し、11年度の約50校がすべてキャンセル、12年度もゼロだった。

今年8、9日に福島を訪れた福岡県立修猷館高校(福岡市)は震災の翌年、2年生の長野県でのスキー研修を、震災被災地とスキーを選択できる東北研修旅行に変更した。だが11年当時、それに保護者や生徒から反対する声もあった。

3回目の今年はこれまでの宮城県に加え、福島も初訪問。昨年2月の保護者向けの説明会では反対意見は全く出なかったという。

2年生の一部の生徒126人は、津波被害が激しかったいわき市の沿岸部を訪れ、被災者らの話を直接聞くなどした。生徒365人が参加した最後の全体研修では被災者や消防士の体験談を聞いた。被災した同市の農業木田テイスさん(69)は「若い人たちに興味を持ってもらってうれしかった。復興に向けて力づけられた」と話した。男子生徒の1人は同級生らに「将来苦しい場面があると思うけど、(被災者から学んで)へこたれずに負けない強い人間になってほしい」と呼びかけた。

奥山副校長(68)は「福島は風評被害や原発事故による避難

### 誘致活動奏功 安全性訴え東京でもセミナー

という状況があり、宮城と違う苦しみがあった。生徒たちはたくまじさとかやさしさを感じてくれたと思う」と話した。

長崎県立長崎西高校(長崎市)は修学旅行先として韓国を予定していたが、日韓関係の悪化や、昨年5月に福島からの誘致活動もあり、宮城や福島に変更した。昨年12月に北塩原村を訪れ、原発事故で大熊町から避難した夫婦の話を聞いた。

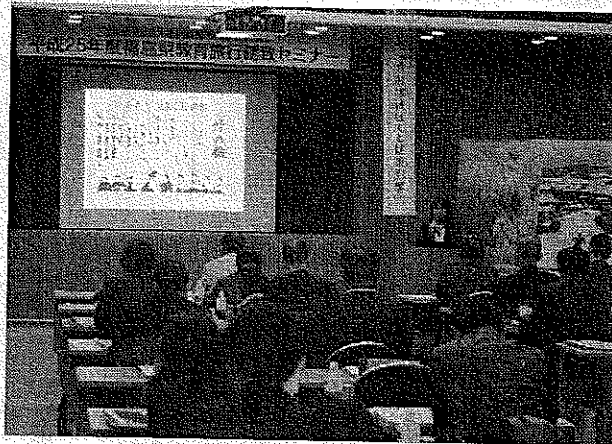
女子生徒の1人は「九州に住んでいる私たちにできることは、今でも震災の被害に苦しんでいる人がいるということを知れず、今回、私たちが学んだ震災のおそろしさを周りの人たちに伝えることだと思いました」と言った。宅島健司教頭(53)は「実際に震災を経験した人から聞く話は、ニュースで伝えられる内容と違っていた。行かせて良かった」と話した。

同協会などは、パンフレットや福島の放射線量マップを配り、福島を訪れた場合の追加被曝線量を試算して伝えるなどの誘致活動を続けてきた。今年度は誘致活動を9回行う予定で、17日には県外で初めての誘致セミナーも東京で開いた。

同協会の野崎和彦・教育旅行推進課長(43)は「福島が復興に向かっている姿を見るのは今しかない。被災者が困難に立ち向かう姿が、子どもたちが将来壁にぶつかってきたとき乗り越えるヒントになると訴えてきた」と言い、今年度の教育旅行は確実に増えるとみている。(小島泰生)

# 福島県が教旅セミナー

## 首都圏の学校・旅行業対象、実施校の発表も



学校、旅行会社から約100人が出席した  
(東京都内で)

### 「風評に惑わず行動」に学び

福島県観光物産交流協会は1月17日、東京・平河町の都道府県会館で、初めての「教育旅行誘致セミナー」を開いた。首都圏の学校や旅行会社の関係者ら約100人が参加、放射線医療の専門家の説明や県への教育旅行実施校からの事例発表、語り部による震災講話に耳を傾けた。

東日本大震災による原 是震災前の水準に戻って「延べ宿泊者数」の学生発事故の影響で、教育旅行 いない。同協会によると、をを受け入れてきたが、11年度は約13万人まで減少。12年度は持ち直したものの、約24万人にとどまっている。

教育旅行の戻りが遅いのは、保護者を中心に放射線に対する不安が根強い。そのため、学校側が福島への旅行を計画しても賛同を得にくい状況がある。このため、セミナー

では長崎大学大学院放射線医療専攻教授の高村昇氏が「放射線被ばくと健康影響」について講演。高村氏は福島における放射線量の現状などを説明した上で、「サイエンス

(科学)とエモーション(感情)のバランスをとらざるか、福島への教育旅行で感じてほしい」と呼びかけた。

教育旅行実施校からの事例発表では、品川区立荏原第一中学と千葉県の和洋国府台女子中学の関係者が行った。和洋国府台女子中の西山良子教諭は「本校の教育旅行として会津は外せない。また風評被害に惑わされず、事実をもとに責任を持って行動できる人の育成のため、会津林間学校を実施している」とし、保護者の反対もないと強調した。

最近では、福岡県立修猷館高校の2年生約360人が1月8日から1泊2日の日程で会津若松市やいわき市を訪れた。震災後、教育旅行を実施する福岡の学校は同校が初めてという。

同協会では風評被害を促進を図っていきたくと  
払拭し、教育旅行の誘致している。【内井高弘】